

1 8 森林インストラクターの活用による 学校教育との連携について

三戸営林署 ○ 松尾 亨
田村 正義

1 はじめに

近年森林の持つ効用が見直される中、国民のアウトドアライフ志向の高まりに応じて緑とのふれあいの場、安らぎの場として利用を求める声が多くなっている。これにともない自然の山野におけるレクリエーション活動の態様も自然探勝、野外スポーツにとどまらず森林の機能に着目した医療、文化、教育等、を目的とするなど多様化してきている。

このような状況に対応して昭和63年より森林インストラクターの活用と言う事で各地域において活動しているところである。しかし、全国的に制度の浸透が進んでおらず、まだまだ未知数の分野である。

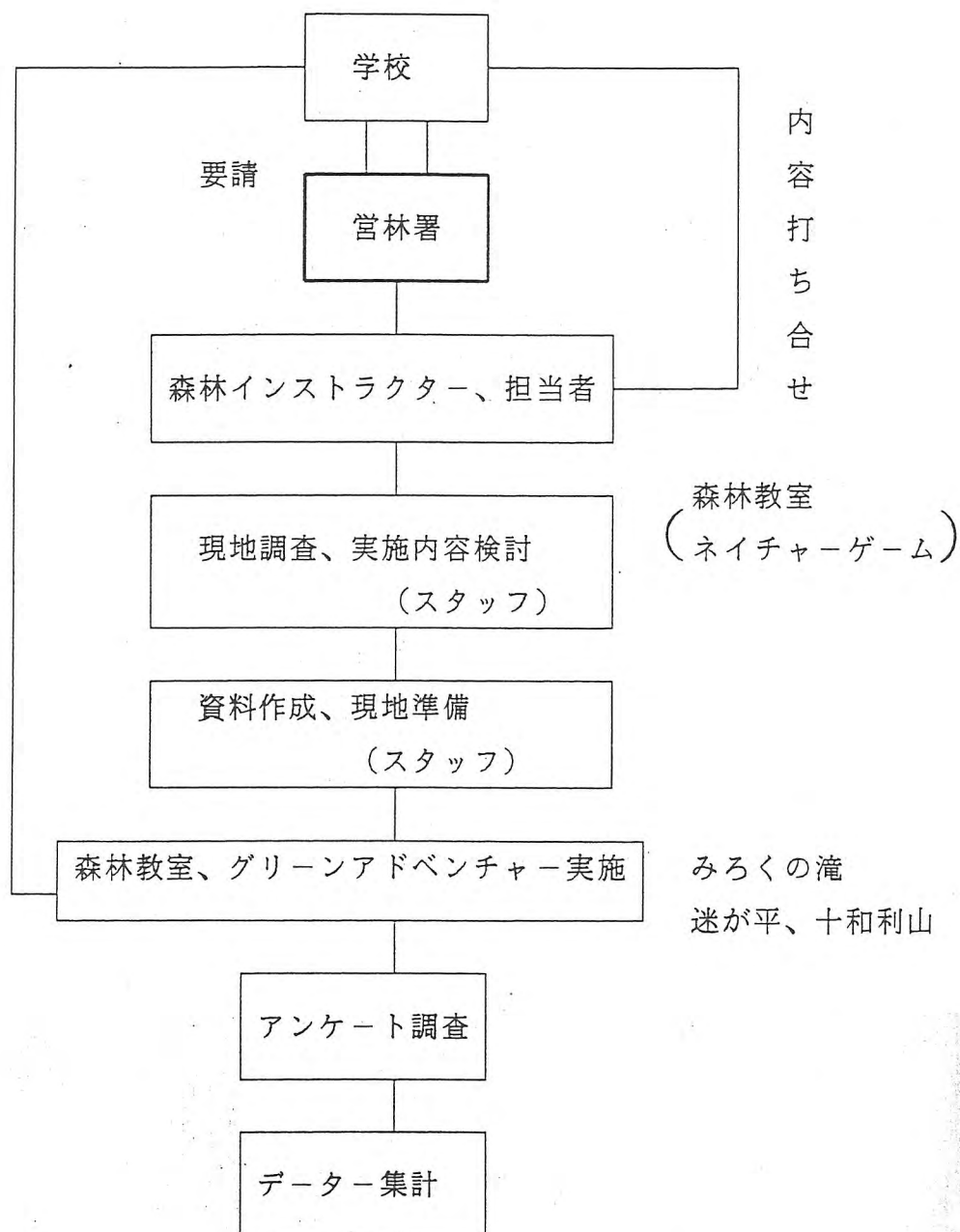
そこで当署において本制度の定着と発展を図るため学校教育との連携を強める事が重要と考え、平成5年度に実施した森林インストラクター活動を通して調査研究したことを発表する。

写-1. 2 森林教室、ネイチャーゲームの風景



2 実施状況

(1) 森林教室等の実施から調査までの流れ。



(2) 実施時期および場所

月日	対象校	場所	人員	内容
H, 5, 5,	田子小学校	田子小学校林	56名	ネイチャーゲーム他
H, 5, 9	上郷保育所職員	郷土の森 (みろくの滝)	5名	グリーン アドベンチャー
H, 5, 9	田子高校	郷土の森 (みろくの滝)	76名	グリーン アドベンチャー
H, 5, 10	清水頭小学校	迷が平休養林 十和利山	51名	森林教室、登山

3 アンケート調査について

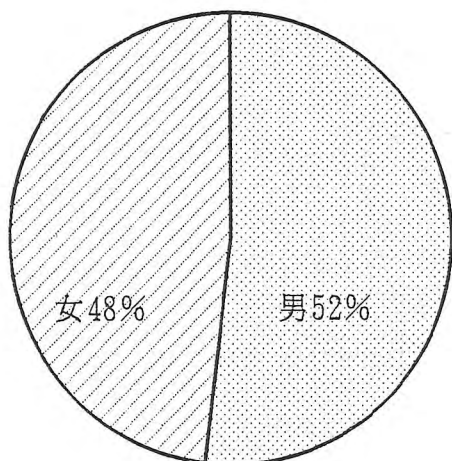
次の4つのテーマにそって（森林に関すること、インストラクターに関する事、今後の方向性、先生方の感じ方、）調査対象者の生の声が聞けるようコメント欄を設けアンケートを実施した。

（188名のうち181名回答）

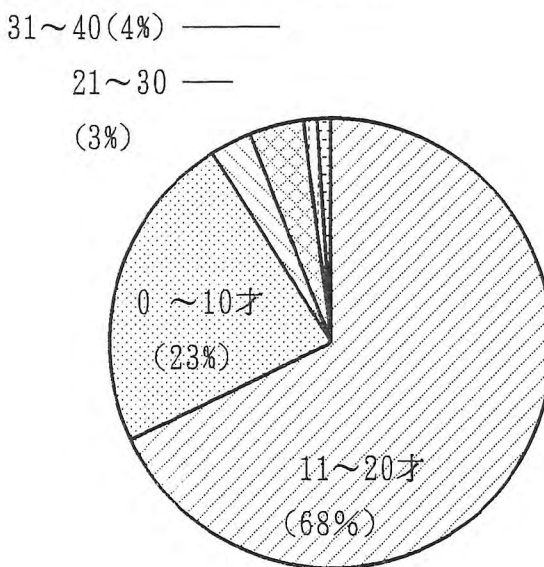
先生17名、小学生96名、高校生68名

(1) 年齢構成及び男女比

グラフ-1 男女比

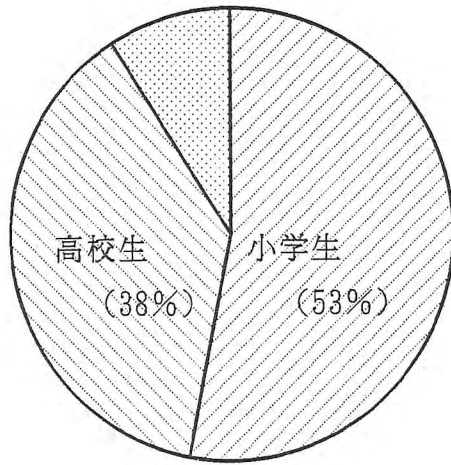


グラフ-2 年齢構成



グラフー 3

先生 (9%)

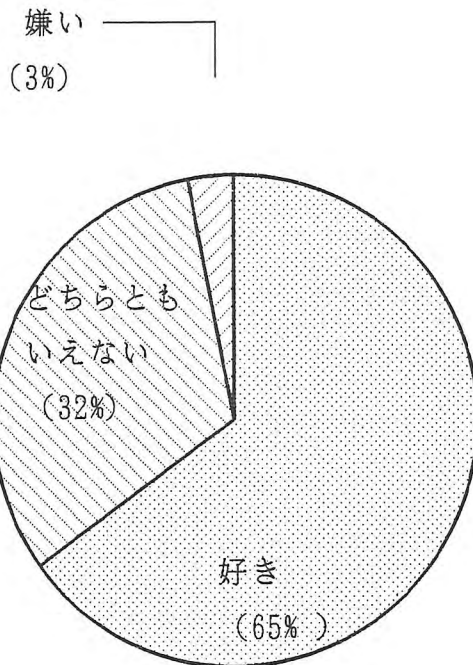


グラフー 1 ~ 3 のデーターから男女比が約50%ずつ、年齢構成も10代を中心とした、学生が90%を占めている。

(2) 森林に関する質問

ア あなたは森林 (やま) が好きですか?

グラフー 4



(参考)

田子町は、森林面積の割合が82%でそのうち49%が国有林である。

各学校とも週辺の環境は緑が豊富で自然に恵まれている。

おもな理由

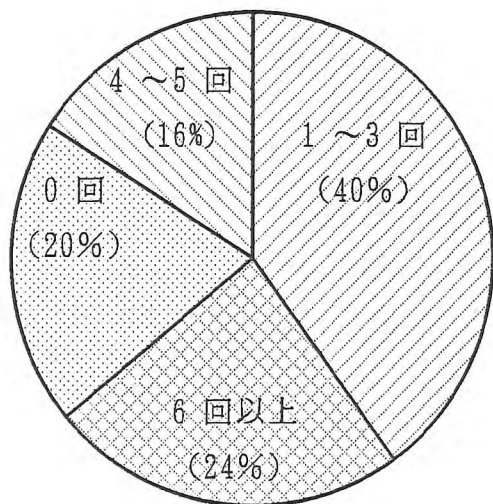
好き

- 空気が旨い
- 緑が綺麗
- 動植物が好き
- 鳥や昆虫に会える
- 山頂から景色を見るのが好き
- 落ち着く
- アウトドアーなスポーツが好き

- 嫌い
- ヘビがいる
 - 山に迷う事が怖い
 - 冬は寒くて嫌
 - 海や川など水辺が好き
 - 虫が嫌い

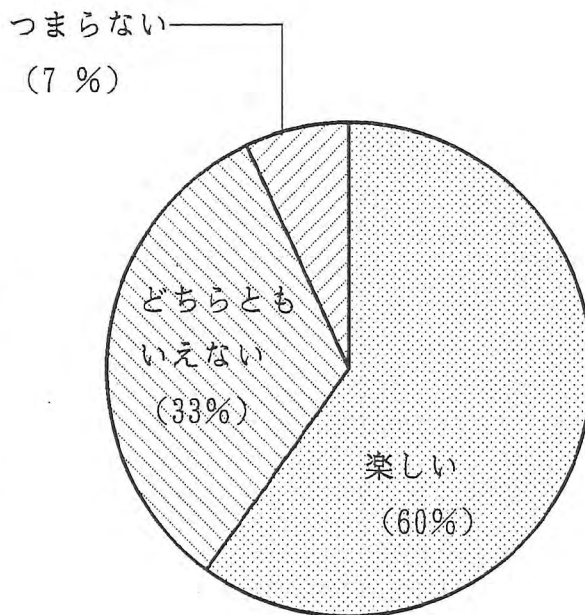
イ 家族や友人と森林（やま）に一年のうち何回でかけますか。

グラフ-5



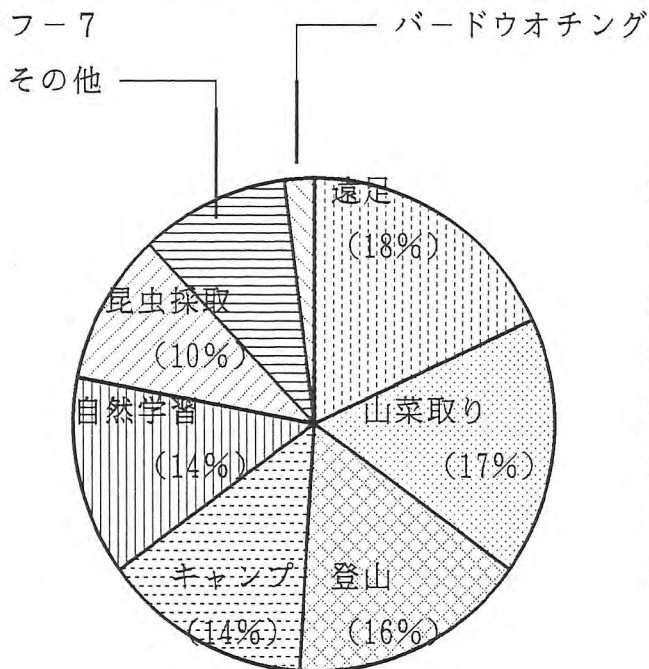
ウ 森林（やま）で遊ぶ事は楽しいですか。（学習する事も含めて）

グラフ-6



エ 森林（やま）にでかける目的は、どれが多いですか。

グラフ-7



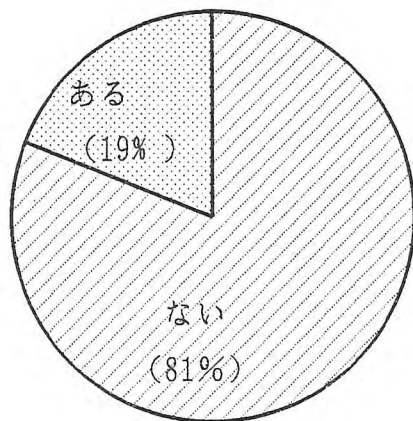
グラフ4~7までの森林に関する質問では、約65%の人が森林に好感を持ち森林で活動する事を楽しいと感じている。また80%の人が一年のうち複数回出掛け、その目的も小学生では昆虫採集や登山に興味があるが、世代が上がるにしたがいキャンプやアウトドアスポーツ、登山、植物観察と志向も変わっていく。

・グラフ-7の『山菜取り』は、各年代を通して人気があった。（地域的に山菜取りが日常生活に溶け込んだものとなっている。）

(3) インストラクターに関する質問

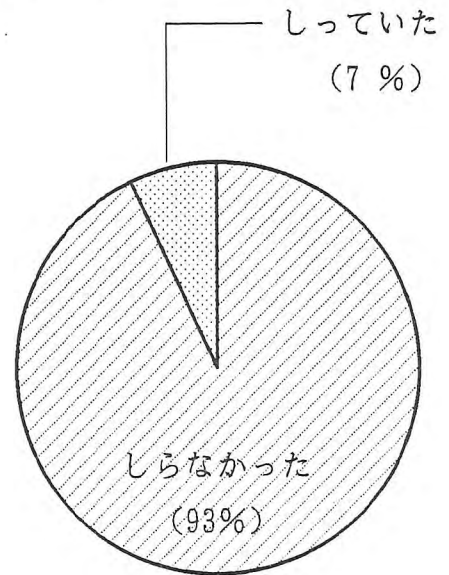
ア 私（松尾）以外の森林インストラクターや指導員による自然学習や森林教室に参加したことがありますか。

グラフー8



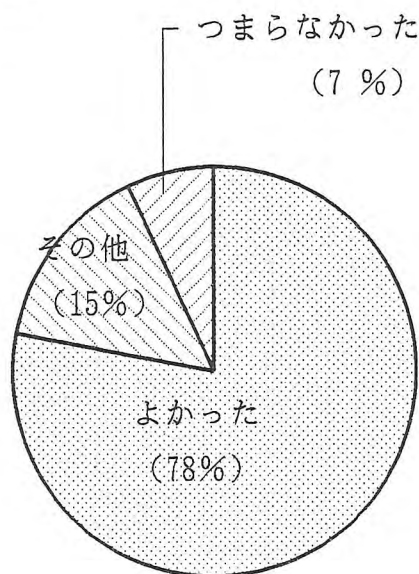
イ 森林インストラクター制度があることを知っていましたか。

グラフー9



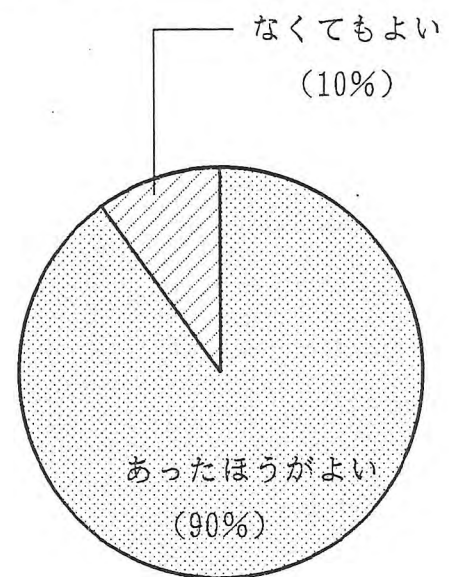
ウ 今回グリーンアドベンチャーや、森林教室に参加してどうでしたか。

グラフー10



エ 今後も森林インストラクターによる、自然学習があったほうが良いと思いますか。

グラフー11



・ グラフー 8～11までのデータ分析では、グラフー 8によると20%の人が私以外の指導員による自然学習に参加した経験が有るが、数字的に機会の少なさを感じる。

グラフー 9では、森林インストラクター制度を約90%の人が知らず宣伝不足と知名度の低さが目立つ。

次にグラフー10.11 についてであるが80%以上の人が参加して良かった、今後もあったほうがよいと言う意見が多くその主なものは以下である。

(3)、ウ、グラフー10

よかった

- ・ 自然の大切さを知った。
- ・ 自然ついてまたは、木について勉強になった。
- ・ ゲーム、クイズ形式で楽しかった。
- ・ 木の鼓動が聞けた（聴診器）
- ・ 自然を使ってこんなに遊べると思はなかった。
- ・ 自分が知ることにより子供達に指導できる。

つまらなかった

- ・ 難しかった。
- ・ 時間が足りなかった。
- ・ もともと興味がない。

(3)、エ、グラフー11

あったほうが良い

- ・ 自然や木についてもっと学びたい。
- ・ 自然に親しみをもってふれあえるから。
- ・ 自然の大切さを他の人にも知って欲しいから。
- ・ 心が安らぐ。

なくても良い

- ・ つかれる
- ・ 森林が好きでない。
- ・ 知っても役に立たない。

写-3 グリーン・アドベンチャー資料

野外文化活動ハンドブック

グリーンアドベンチャー

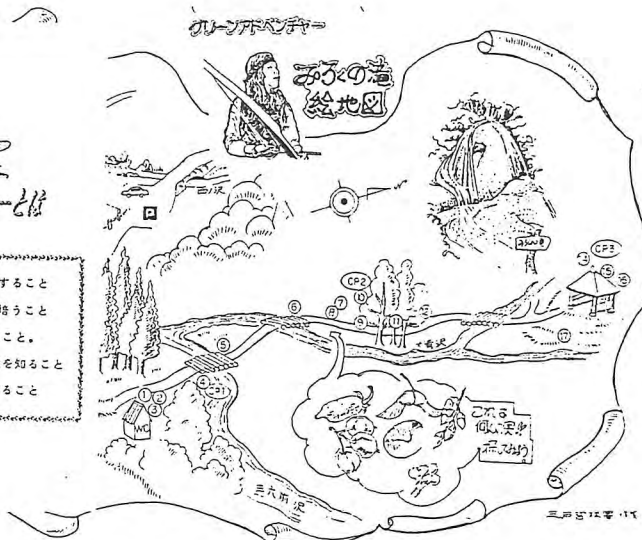


青森県立田子高等学校 1 学年
「森林教室」
日時: 93/9/29 12:00-15:00
場所: 南米満山国有林42林班
「ミロクのはら」

三戸管林署発行

グリーンアドベンチャーとは

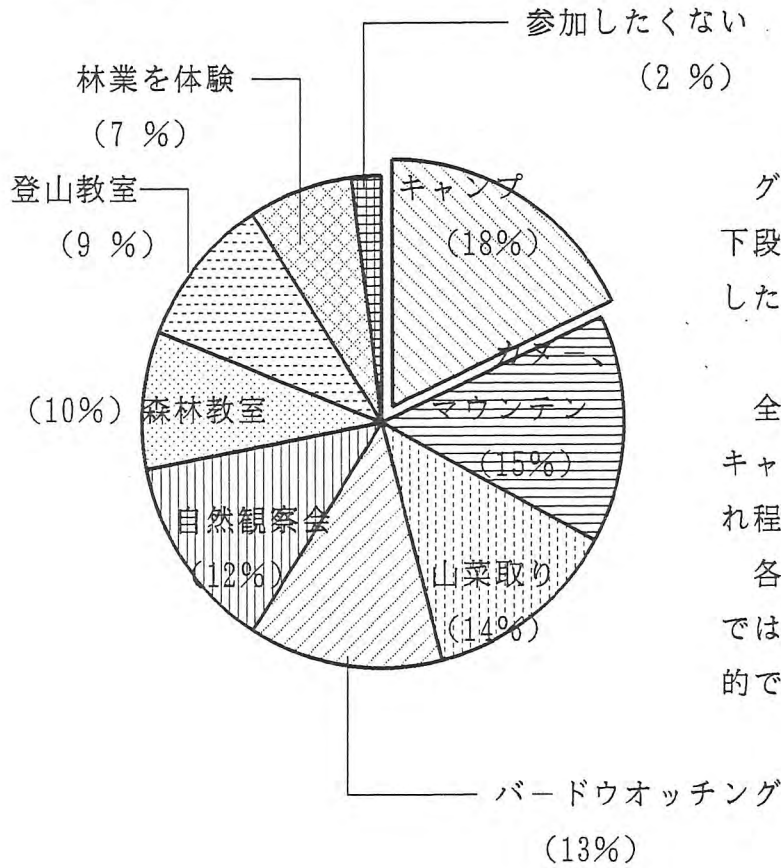
1. いつでもどこでも自然を発見すること
2. 自然を友として生きる知恵を培うこと
3. 身近な植物を観察し、愛すること。
4. 植物と対面し、その名前と特徴を知ること
5. 生活文化と植物の関わりを知ること



(4) 今後の方向性

ア 次回に森林インストラクターを使った行事に参加するとしたらどのようなものに参加したいですか。
(複数回答可)

グラフ-12



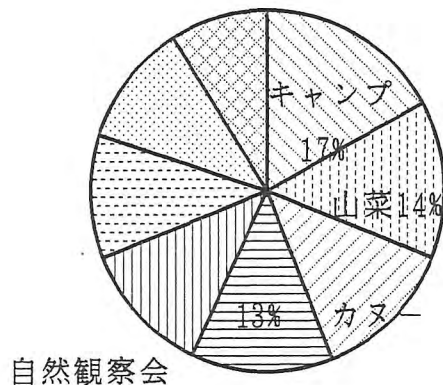
グラフ-12が全体のデータであり下段のグラフ12-1~3 が世代別に分類したものである。

全体的なデータで見ると1位のキャンプから5位の自然観察会までそれ程の差がなく出ている。

各世代の項目別順位を見ると小学生では、キャンプ、カヌーなどスポーツ的で楽しめるもの、高校生では少しオシャレにカヌー、バードウォッチングとなり先生では自然観察会が1位となっている。

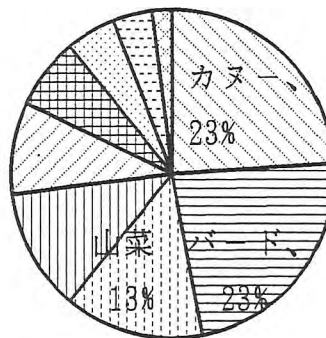
グラフ-12-1

小学生



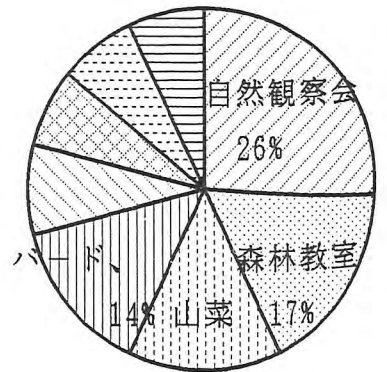
12-2

高校生



12-3

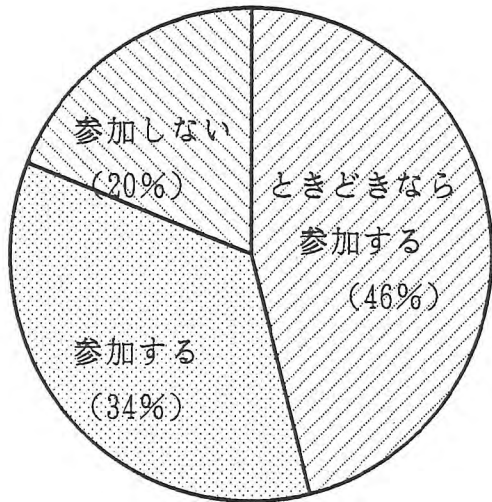
先生



14%

イ 休みの日に(4)ーアで答えた行事をするとしたら、参加しますか。

グラフー13



全体の80%の人がときどき行う
行事として参加する意思が有る。

ウ 森林インストラクターに要望や意見がありましたらお書きください。

主なもの

- ・自然や山のことをもっと教えて。
- ・山の歴史をしりたい。
- ・森林にあるものでなにか作りたい。
- ・休みの日にも森林教室やキャンプをしたい。
- ・連絡の窓口(申し込み)方法が分からない。
- ・その他いろいろ。
- ・答えのヒントはいらない。
- ・専門的な説明より分かりやすい説明をしてほしい。

エ 森林や林業、自然保護について意見がありましたらお書きください。

主なもの

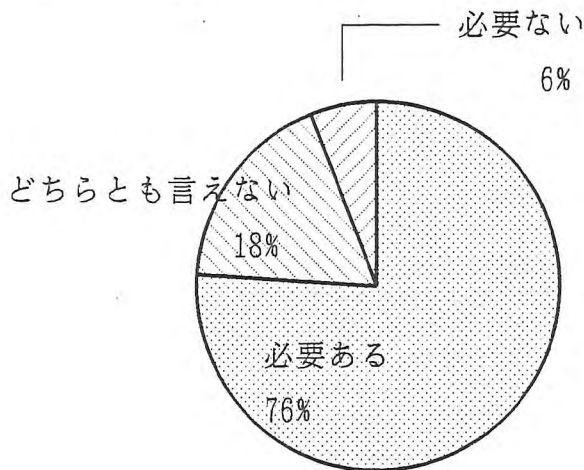
- ・あまり木を切らないでほしい。
- ・もっと自然保護に取り組んでほしい。
- ・森林を減らさないよう努力が必要。
- ・営林署では森林を大事にしていると思う。
- ・世界遺産の白神山地などの天然記念物を大事に守ってほしい・・・私も自然を守るために頑張ります。

- ・ 未来までこの森を残してほしい。
- ・ 田子の大自然を大切にそして有効に使う。。
- ・ 白神山地などのへのレジャー入山は、ガイドをつけるなど地域の特性生かした方法が必要。(入山料は保全や広報の資金にする。)
- ・ 自然と人間の共存・・・木材の利用と自然保護の境界線が分かりにくく指導に困る。
- ・ 学校教育の中にも、もっと取り入れてほしい。

(5) 先生方の感じ方

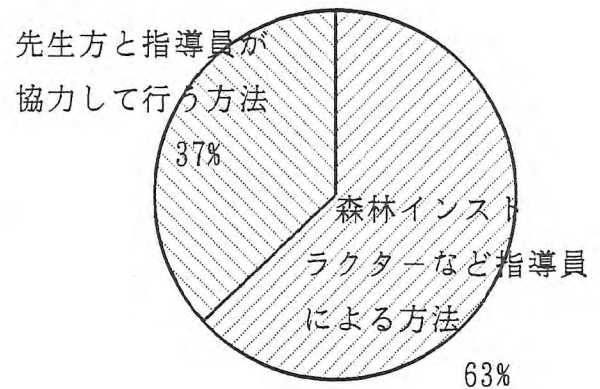
ア 学校教育の中で、森林や林業に関する知識の指導が必要と考えますか。

グラフ-14



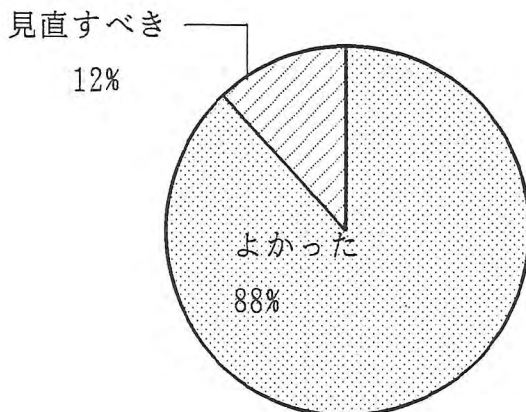
イ アで必要と考えた方はどのような方法がよいと考えますか。

グラフ-15



ウ 今年行った森林教室等の実施時期と時間はどうでしたか。

グラフ-16



グラフ-14~16の3つから得たデータから先生方の考え方は、森林や林業に関する知識の指導が必要であるが76%を占め、またその方法としては、2通りでたがいずれも森林インストラクターが必要であるとの考え方に基づいている。

実施時期は90%が適期と考え、5月に行った1校が対応が間に合わなかったことから見直すべきと出ている。

エ 今後の学校5日制導入にあわせて森林に関する学習行事を社会教育の一環として休日に行うとしたらどう思いますか。

主なもの

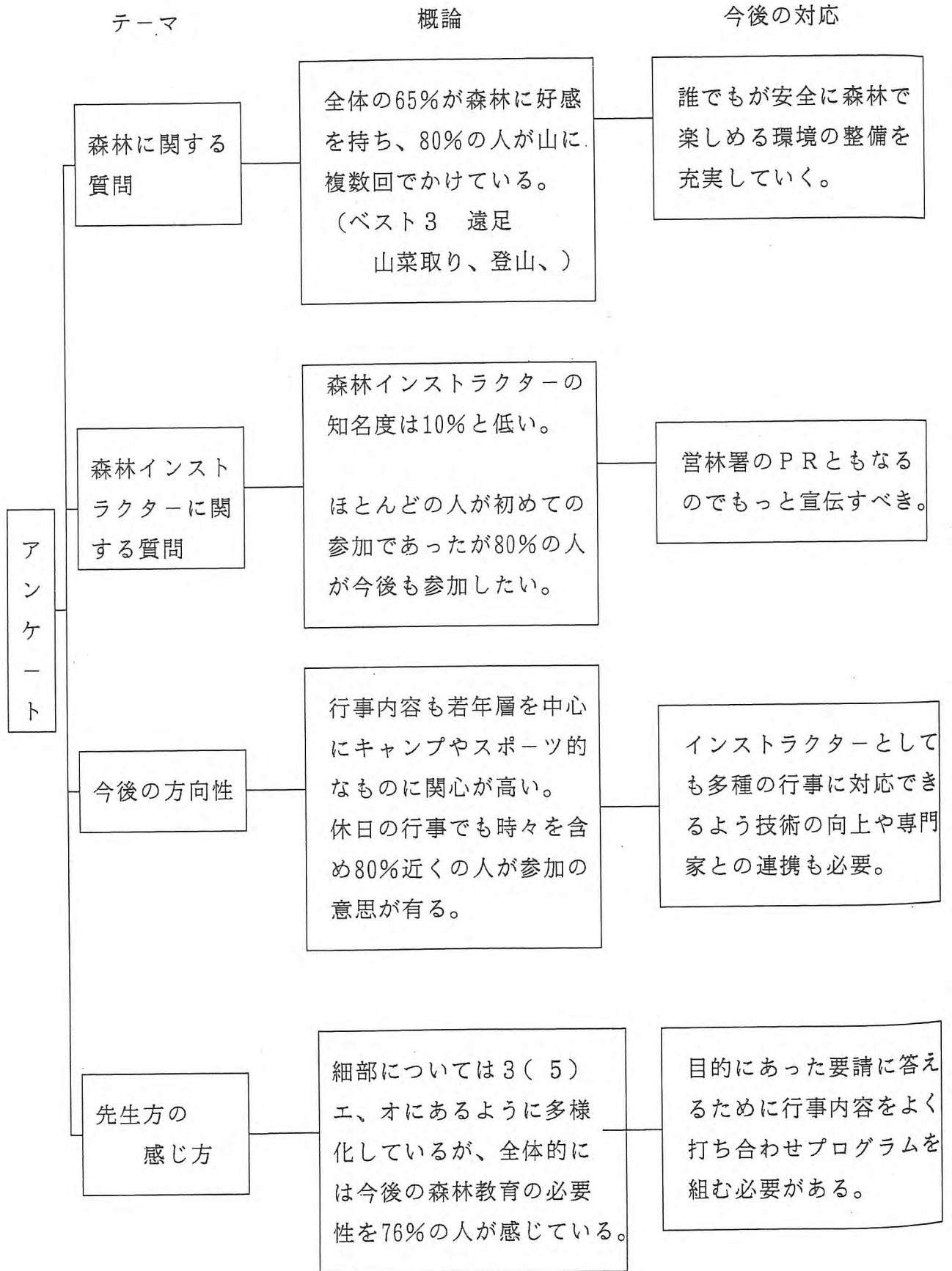
- ・年に数回の行事としてとても良い休日になる。
- ・キャンプ、バードウォッチングとタイアップさせると参加者が増える。
- ・自然保護の大切さを知らせて欲しい。
- ・社会教育として行う事は大変良いと思う。
- ・自然体験を通し知識を興味深く学ばせてほしい。
- ・年に数回、特定の地域で行えるように公募してどうか。

オ 現代の日本における自然教育に対する意見などございましたらお書きください。
(森林教育という意味にとらえても構いません。)

主なもの

- ・現在は自然教育として行っているものは、余暇の過ごし方や行事内容に主眼が有り保護教育が後回しである。
- ・制度や資格を持たない者が利用できない保全は、限界が有るのでは？
(・・・ 国民的マナー教育が必要)
- ・山村に住んでいる人にも世界的視野での自然保護に対する意識啓発が必要。
- ・現代の自然教育は良さだけを取り上げ自然の怖さ、素晴らしさ、不思議さを覚えさせていない。本物の自然をつたえるため体験学習が必要。
- ・教育的に今まで消費の面が全面に出ていたなので、今後は良い物を残す、作る育てる、と言う教育が必要。

4 アンケートの分類



5 おわりに

一年間行ってきたイベント実施、アンケート調査、新聞社、教育関係者からの聞き取り調査をとおして森林にたいする、渴望や要求がますます高まってきていることを感じる。しかしその反面その機会が得にくく少ない事も確かである。昨年実施したイベントも総じて好評だった事も前記のようなような欲求が要因の一つと考えられる。

学校教育との連携によるメリットとしては、第一にまとまった集団であり行動しやすい、第二に対象者が一般募集に比べはっきりしているので『テーマ』が絞しやすい、第三に将来的に森林に親しみ、自然について考える人間性を育てていける点が上げられる。

また今後推進すべき点として、第一に相手側に宣伝する事であり、学校行事と絡み合わせるなど年度当初に話しておく必要がある。第二に要請をうける営林署側の窓口を明らかにし、それに対応できるような組織作りが大事であり、最後にはプログラムの作成に当たっては、学校側と綿密に打ち合わせることが必要である。今後はアンケート調査の結果にもとづいた方向で多様な行事と組み合わせていく必要があるし、また教育的な側面を持っている森林教室、自然観察会の内容の充実をはかるべきと考える。

新聞2社（東奥日報、デーリー東北）、教育関係者の考え方も森林教育の必要性や、方向性を示した点では同様であり3（5）エ、オが参考になる。

学校側では今後も森林についての知識を持っている我々専門家の参加を望んでいる事から我々インストラクターの側も資質の向上に努め多方面に対応できるよう努力しなければならない。とりわけ業務との調整も難しいが、インストラクター制度の定着と発展のためにもよりいっそう学校教育との連携を深めていきたい。

尚 三戸営林署としては森林インストラクター活動を接点にして、地域へのPRを図りながら清水頭小学校の樹木標示板設置（エンジュ、職員手作）や、来夏に自然観察を目的とした新たな環境財産作りとして青森、岩手、秋田、3つの県境に位置する四角岳の登山道新設を田子町と進めている。

また、来年度に営林署主催の国有林PRを進めるイベントの企画を進めており、地域への浸透を多方面から広めている。